

女川原子力発電所2号炉
成立性確認訓練(シーケンス訓練・大規模損壊訓練)の計画について

2023年8月7日
東北電力株式会社

目次

重大事故等訓練及び大規模損壊訓練の概要をご説明

1. 訓練内容について
2. 訓練手順, 実施方法 (評価基準など)
3. 訓練体制
4. スケジュール

1. 訓練内容について(成立性確認訓練の選定)

【対象】

- 有効性評価で選定した重要事故シーケンス23項目のうち、「シーケンス訓練が中央制御室主体か現場操作主体か」で分類を行い、さらに「シーケンス・操作の類似性及び網羅性を考慮」して分類した重要事故シーケンスの4つの事象を選定。
- 成立性確認訓練は、類似性の観点から整理したⅢの重要事故シーケンスに、Ⅰ、Ⅱ及びⅣの重要事故シーケンスのうち現場で実施する個別手順を加え、年1回以上訓練を実施する計画。

【重要事故シーケンスの4つの事象】

Ⅰ：全交流動力電源喪失（TBP）

Ⅱ：雰囲気気圧力・温度による静的負荷

（格納容器過圧・過温破損）代替循環冷却を使用できない場合

Ⅲ：高圧溶融物放出／格納容器雰囲気直接加熱

Ⅳ：使用済燃料プールにおける重大事故に至るおそれがある事故（想定事故2）

＜参考＞重要事故シーケンスから抽出された4つの事象

重要事故シーケンス		■ : 中央制御室主体	■ : 現場主体
運転中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故	1	高圧・低圧注水機能喪失	■
	2	高圧注水・減圧機能喪失	■
	3	全交流電源喪失(長期TB)	■
	4	全交流電源喪失(TBU)	■
	5	全交流電源喪失(TBD)	■
	6	全交流電源喪失(TBP)	■
	7	崩壊熱除去機能喪失(取水機能が喪失した場合)	■
	8	崩壊熱除去機能喪失(残留熱除去系が故障した場合)	■
	9	原子炉停止機能喪失	■
	10	LOCA時注水機能喪失	■
	11	格納容器バイパス(インターフェイスシステムLOCA)	■
運転中の原子炉における重大事故	12	雰囲気圧力・温度による静的負荷(格納容器過圧・過温破損)代替循環冷却系を使用する場合	■
	13	雰囲気圧力・温度による静的負荷(格納容器過圧・過温破損)代替循環冷却系を使用できない場合	■
	14	高圧溶融物放出/格納容器雰囲気直接加熱	■
	15	原子炉圧力容器外の溶融燃料—冷却材相互作用	■
	16	水素燃焼	■
	17	溶融炉心・コンクリート相互作用	■
SFPにおける重大事故に至るおそれがある事故	18	想定事故1	■
	19	想定事故2	■
運転停止中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故	20	崩壊熱除去機能喪失	■
	21	全交流動力電源喪失	■
	22	原子炉冷却材の流出	■
	23	反応度の誤投入	■

シーケンスが中央操作主体か現場操作・作業主体かで分類

1
2
7
8
9
10
11
20
22
23
3
4
5
6
12
13
14
15
16
17
18
19
21

シーケンス・操作の類似性及び網羅性を考慮して分類

・3～6と21は類似の起因事象で、現場操作は同一。
⇒事象進展の早い6で代表

・12と13は同一事象であるが現場対応手段が異なる。12の現場操作については全て14に踏襲されている。
⇒13で代表

・12及び15～17の現場作業については全て14に踏襲されている。
⇒14で代表

・18と19は類似の起因事象で、現場操作は同一。
⇒事象進展の早い19で代表

机上訓練による成立性確認

6→I	全交流電源喪失(TBP)
13→II	雰囲気圧力・温度による静的負荷(格納容器過圧・過温破損)代替循環冷却系を使用できない場合
14→III	高圧溶融物放出/格納容器雰囲気直接加熱
19→IV	想定事故2

全ての重大事故対応要員が机上にて4つのシーケンスについて成立性確認を実施することで、現場操作の動き及び連携の成立性を確認する。

1. 訓練内容について(重大事故の教育訓練)

- ✓ 力量の維持向上のための教育訓練を行い、シミュレータ訓練、要素訓練、図上演習を経て最終的にシーケンス訓練を行う計画

力量の維持向上のための教育訓練

①
表1～19の対応**訓練**
(個別訓練) 自主
対策設備を含めた全
手順
年1回以上※

②
挙動・状況把握・対
応の**教育**
(遠隔教育)
年1回以上

③
重大事故の内容・対
処方法等の**教育**
(遠隔教育)
年1回以上

④
プラント状況の把握・
的確な対応操作の選
択等の総合的な**訓練**
(緊急時演習)
年1回以上

※ 年1回の実施頻度では力量の維持が困難と判断される教育及び訓練については、年2回以上実施する。

成立性の確認訓練

①
中央制御室主体の操
作に係る成立性確認
訓練
(シミュレータ訓練)
年1回以上

②
技術的能力の成立性
確認**訓練**
(要素訓練) シーケ
ンス訓練にかかる手順
年1回以上

③
机上訓練による有効
性評価の成立性確認
訓練
(図上演習)
年1回以上

④
現場訓練による有効
性評価の成立性確認
訓練
(シーケンス訓練)
年1回以上

1. 訓練内容について(大規模損壊の教育訓練)

✓ 力量の維持向上のための教育訓練を行い、技術的能力の確認訓練を行う計画

力量の維持向上のための教育訓練

①

大規模損壊に特化した多様な設備を柔軟に用いる対応訓練

年1回以上

②

航空機燃料火災を想定した消火訓練
(消火訓練)

年1回以上

③

発電所対策本部指揮者等による指揮命令系統教育
(指揮者訓練)

年1回以上

④

要員の多能化

計画的に

技術的能力の確認訓練

①

大規模損壊発生時の対応に係る総合的な訓練
(大規模損壊訓練)
年1回以上

1. 訓練内容について(力量の付与のための教育訓練)

✓ 力量の付与のための教育訓練 – 全体イメージ

重大事故

①

表1～19の対応訓練

力量の維持向上のための教育訓練と同様

②

図上演習

成立性の確認訓練の図上演習と同様

③

シーケンス訓練

成立性の確認のシーケンス訓練と同様

大規模損壊

①

大規模損壊に特化した多様な設備を柔軟に用いる対応訓練
(力量の維持向上のための教育訓練と同様)

②

航空機燃料火災を想定した消火訓練
(力量の維持向上のための教育訓練と同様)

③

発電所対策本部指揮者等による指揮命令系統教育
(力量の維持向上のための教育訓練と同様)

④

要員の多能化
(力量の維持向上のための教育訓練と同様)

⑤

大規模損壊訓練

技術的能力の確認訓練と同様

2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

シーケンス訓練における**運転員**の使用手順については以下のとおり。

		操作項目	手順書	
運転員(1/4)	状況判断	給水流量の全喪失確認 外部電源喪失確認 原子炉スクラム, タービントリップ確認 非常用ディーゼル発電機等自動起動確認 常設代替交流電源設備自動起動確認 高圧注水機能(原子炉隔離時冷却系及び高圧炉心スプレイ系)喪失確認 非常用ガス処理系自動起動確認 中央制御室換気空調系自動起動確認	・非常時操作手順書(徴候ベース)	・RC「スクラム」 ・PR「電源回復」
	低圧ECCS起動	低圧注水機能(低圧炉心スプレイ系及び残留熱除去系)喪失確認	・非常時操作手順書(徴候ベース)	・RC/L「水位確保」
	格納容器除熱	残留熱除去系(A)及び残留熱除去系(B)機能喪失確認	・非常時操作手順書(徴候ベース)	・RC/L「水位確保」 ・SP/T/S/P温度制御」
	被ばく低減操作	中央制御室換気空調系事故時運転モード切替え	・非常時操作手順書(シビアアクシデント) ・非常時操作手順書(設備別)	・RPV制御 ・A-6-1-1-2通常運転から事故時運転モードへの切替

2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

	操作項目		手順書	
運転員(2/4)	原子炉への全注水機能喪失確認	低压代替注水系(常設)(復水移送ポンプ)機能喪失確認	・非常時操作手順書(徴候ベース)	・RC/L「水位確保」
	原子炉急速減圧操作	逃がし安全弁(自動減圧機能)2個 手動開放操作	・非常時操作手順書(徴候ベース) ・非常時操作手順書(設備別)	・ES/I「EOP-SOPインターフェース」 ・R-2-1-2手動による原子炉減圧
	原子炉格納容器代替スプレイ冷却系(常設)による格納容器下部への注水	原子炉格納容器代替スプレイ冷却系(常設)系統構成, 起動/運転確認	・非常時操作手順書(シビアアクシデント) ・非常時操作手順書(設備別)	・RPV制御 ・P-4-2-2復水移送ポンプによるドライwel代替スプレイ(格納容器下部注水)
	格納容器下部注水系注水操作	原子炉格納容器下部注水系(常設)(復水移送ポンプ)による格納容器下部への注水	・非常時操作手順書(シビアアクシデント) ・非常時操作手順書(設備別)	・RPV制御 ・P-4-2-4復水移送ポンプによる格納容器下部注水
	原子炉補機代替冷却水系準備操作	原子炉補機冷却水系 系統構成	・重大事故等対応要領書(EHG)	・P-1-2-1ARCWによる補機冷却水確保
		原子炉補機代替冷却水系接続後の原子炉補機冷却水系空気抜き		
	原子炉格納容器代替スプレイ冷却系(可搬型)による格納容器冷却	大容量送水ポンプ(タイプI)による格納容器冷却 系統構成, 冷却開始(間欠運転)	・非常時操作手順書(シビアアクシデント) ・重大事故等対応要領書(EHG)	・PCV制御 ・P-2-2-3大容量送水ポンプ(タイプI)によるドライwel代替スプレイ

2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

	操作項目	手順書	
運転員(3/4)	代替循環冷却系による格納容器除熱	代替循環冷却系系統構成	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時操作手順書 (シビアアクシデント) ・非常時操作手順書 (設備別)
		格納容器除熱開始 (残留熱除去系A系配管を用いた格納容器スプレイ及び残留熱除去系B系配管を用いた原子炉注水)	<ul style="list-style-type: none"> ・PCV制御 ・P-2-2-1-1ARHRによるD/Wスプレイ (RHR A系) ・P-3-2-1-1ARHRによるD/Wスプレイ (RHR A系) 実施後に原子炉注水 (RHR B系)
		大容量送水ポンプ (タイプ I) による格納容器冷却停止	<ul style="list-style-type: none"> ・P-2-2-3 大容量送水ポンプ (タイプ I) によるドライウェル代替スプレイ
		原子炉格納容器下部注水系 (常設) (復水移送ポンプ) による格納容器下部への注水停止	<ul style="list-style-type: none"> ・P-4-2-4 復水移送ポンプによる格納容器下部注水
	【個別手順】 減圧機能確保	高圧窒素ガス供給系 (非常用) 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時操作手順書 (設備別)
	【個別手順】 低圧代替注水系 (常設) (直流駆動低圧注水系ポンプ) による原子炉注水準備操作	低圧代替注水系 (常設) (直流駆動低圧注水系ポンプ) 系統構成	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時操作手順書 (設備別)
			<ul style="list-style-type: none"> ・R-2-2-1-2 非常用による窒素ガス確保 (現場) ・R-3-2-3-2 DCLIによる原子炉注水 (交流電源喪失時)

2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

	操作項目		手順書	
運転員 (4/4)	【個別手順】 直流電源確保	125V直流電源負荷切離し(現場)	・非常時操作手順書(設備別)	・E-1-1-1-1 125V蓄電池2A(2B)からの給電(不要負荷切り離し含む)
	【個別手順】 常設代替直流電源設備へ切替え	125V直流主母線盤を常設代替直流電源設備(125V代替蓄電池)からの受電へ切替操作(125V直流主母線盤2A-1,2B-1受電)	・非常時操作手順書(設備別)	・E-1-2-1-1 125V直流主母線盤2B-1,2A-1への給電
	【個別手順】 燃料プール代替注水系(可搬型)による使用済燃料プールへの注水	建屋内ホース敷設, 接続	・重大事故等対応要領書(EHG)	・共通-1-2-1-1 SFP可搬注水(原子炉建屋大物搬入口ルート) ・共通-1-2-1-2 SFP可搬注水(原子炉建屋扉(HPCS DG室)ルート)

2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

シーケンス訓練における**重大事故等対応要員**の使用手順については以下のとおり。

	操作項目		手順書
重大事故等対応要員(1/3)	アクセスルート確保	アクセスルート復旧(復旧が必要な場合)	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事故等対応要領書(EHG) ・A-9-1-1 状況確認とアクセスルート確保 ・A-9-1-2 段差復旧・陥没箇所復旧 ・A-9-1-3 がれき撤去
	代替注水等確保	可搬型設備保管場所への移動, 大容量送水ポンプ(タイプI)の設置, ホースの敷設, 接続	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事故等対応要領書(EHG) ・共通-2-1 大容量送水ポンプ(タイプI)による送水(屋外接続口使用) ・共通-2-1-1 大容量送水ポンプ(タイプI)による送水(ヘッジ使用)【SA要員A~C】 ・共通-2-1-2 大容量送水ポンプ(タイプI)による送水(ヘッジ使用)【SA要員D~F】 ・共通-2-1-3 大容量送水ポンプ(タイプI)による送水(ヘッジ使用)【SA要員G~I】
		大容量送水ポンプ(タイプI)監視	
	原子炉補機代替冷却水系準備操作	可搬型設備保管場所への移動, 原子炉補機代替冷却水系準備	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事故等対応要領書(EHG) ・P-1-2-1-5 原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保 ・P-1-2-1-5-1 原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保【SA要員D~F】 ・P-1-2-1-5-2 原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保【SA要員G~I】
原子炉補機代替冷却水系運転	熱交換器ユニットの起動, 監視	<ul style="list-style-type: none"> ・重大事故等対応要領書(EHG) ・P-1-2-1-5 原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保 ・P-1-2-1-5-1 原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保【SA要員D~F】 ・P-1-2-1-5-2 原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保【SA要員G~I】 	

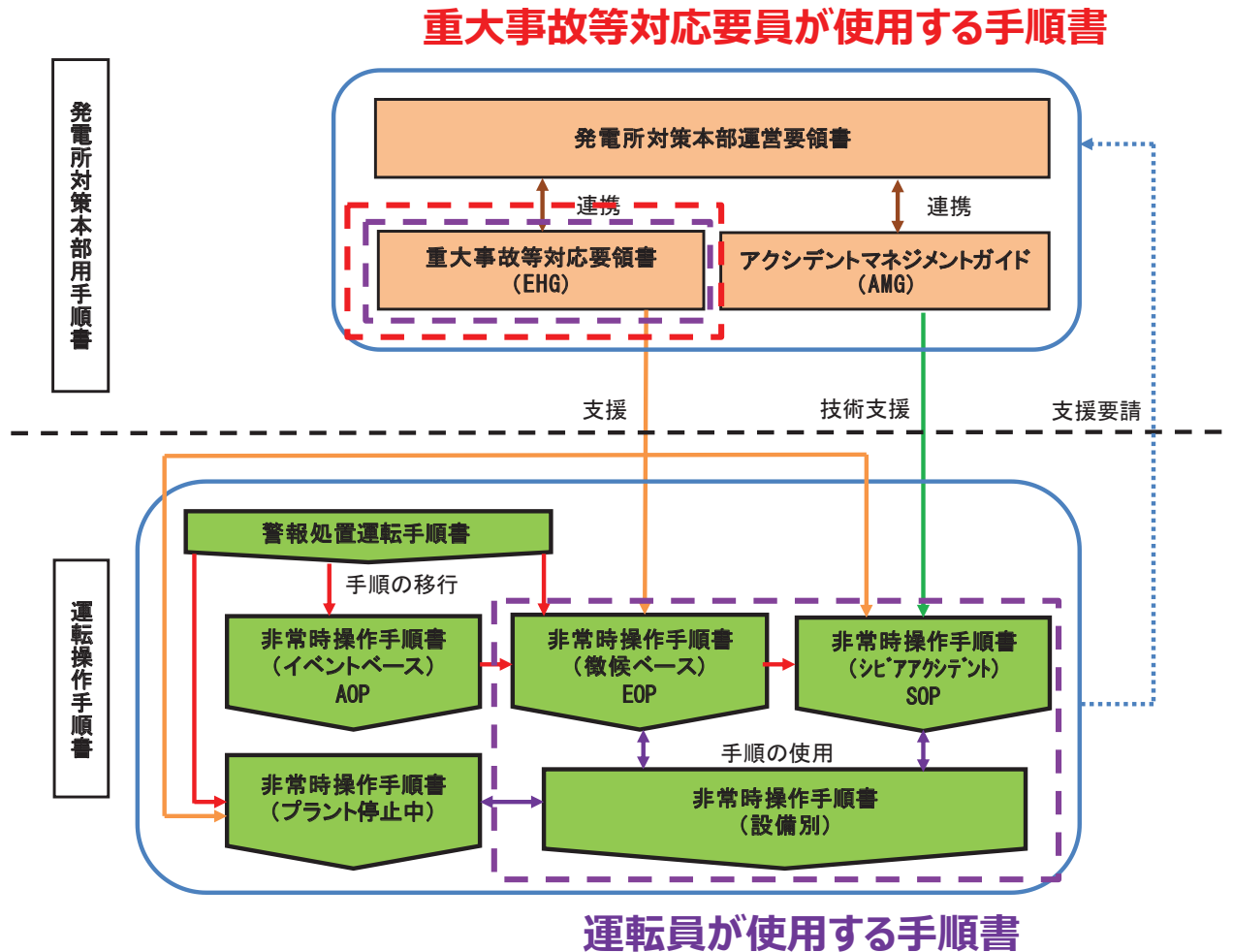
2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

	操作項目		手順書	
重大事故等対応要員(2/3)	原子炉格納容器代替スプレイ冷却系(可搬型)による格納容器冷却	大容量送水ポンプ(タイプI)による格納容器冷却 系統構成	・重大事故等対応要領書(EHG)	<ul style="list-style-type: none"> ・P-2-2-3-3 大容量送水ポンプ(タイプI)によるドライウェル代替スプレイ ・共通-2-1 大容量送水ポンプ(タイプI)による送水(屋外接続口使用) ・共通-2-1-1 大容量送水ポンプ(タイプI)による送水(ヘッダ使用)【SA要員A~C】 ・共通-2-1-2 大容量送水ポンプ(タイプI)による送水(ヘッダ使用)【SA要員D~F】 ・共通-2-1-3 大容量送水ポンプ(タイプI)による送水(ヘッダ使用)【SA要員G~I】
	燃料補給準備	可搬型設備保管場所への移動, ガスタービン発電設備軽油タンクからタンクローリへの移送(大容量送水ポンプ(タイプI)等への補給準備)	・重大事故等対応要領書(EHG)	・A-3-1-4 ガスタービン発電設備軽油タンクからタンクローリへの補給
	燃料補給	大容量送水ポンプ(タイプI)への給油	・重大事故等対応要領書(EHG)	・A-3-1-7 タンクローリから各機器への給油
		原子炉補機代替冷却水系への給油		

2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

	操作項目		手順書	
重大事故等対応要員(3/3)	【個別手順】 燃料プール代替注水系 (可搬型)による使用 済燃料プールへの注水	建屋内ホース敷設, 接続	・重大事故等対応要領書 (EHG)	・共通-1-2-1-1 SFP可搬注水 (原子炉建屋大物搬入口ルート) ・共通-1-2-1-2 SFP可搬注水 (原子炉建屋扉 (HPCS DG室) ルート)
	【個別手順】 淡水貯水槽を水源とした 大容量送水ポンプ (タイプ I) による復水貯蔵タンクへの補給	CST水密扉開放・ ホース接続	・重大事故等対応要領書 (EHG)	・W-1-1-7 淡水貯水槽から復水貯蔵タンクへの補給 ・共通-2-1 大容量送水ポンプ(タイプ I)による送水(屋外接続口使用) ・共通-2-1-3 大容量送水ポンプ(タイプ I)による送水(ヘッド使用)【SA要員G~I】
	【個別手順】 燃料補給	ガスタービン発電設備 軽油タンクへの給油	・重大事故等対応要領書 (EHG)	・A-3-1-7 タンクローリから各機器への給油

＜参考＞ 成立性確認訓練で使用する手順書概要図



第1図 手順書概要図

2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

有効性評価シナリオに則り, 訓練の有効性を評価するため, 必要な操作が完了すべき制限時間(ホールドポイント)を定め, 制限時間内に対応が完了することを確認。

例: 対象シーケンスⅢのホールドポイント

ホールドポイント	制限時間(事象発生からの経過時間)	ホールドポイントの内容
原子炉急速減圧操作	43分	逃がし安全弁(自動減圧機能)2個 手動開放操作を原子炉水位が有効燃料棒底部から燃料棒有効長さの20%上の位置に到達する時間(43分)に対応できること。
原子炉格納容器代替スプレイ冷却系(常設)による格納容器下部への注水(系統構成/起動/運転確認)	4.3時間	原子炉圧力容器下鏡温度が300℃に到達した時点で開始する原子炉格納容器代替スプレイ冷却系(常設)による格納容器下部への水張りを原子炉圧力容器破損(4.3時間)までに対応できること。
代替注水等確保	10時間	原子炉補機代替冷却水系熱交換器ユニット設置開始する時間(10時間)までに対応できること。
原子炉補機代替冷却水系準備(熱交換器ユニット及び大容量送水ポンプ(タイプI)の設置, ホース敷設, 接続)	19時間	代替循環冷却系による格納容器除熱が開始される前余裕を見越した時間(19時間)までに対応できること。
原子炉格納容器代替スプレイ冷却系(可搬型)による格納容器冷却開始	23時間	格納容器圧力及び温度の上昇抑制のため, 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系(可搬型)による格納容器冷却を, 格納容器圧力が0.640MPa[gage]に到達する時間(23時間)に対応できること。
代替循環冷却系による格納容器除熱	24時間	原子炉補機代替冷却水系運転開始後, 代替循環冷却系による格納容器の除熱を行う時間(24時間)までに対応できること。

2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

対象シーケンスⅢ「高圧溶融物放出／格納容器雰囲気直接加熱」における訓練項目及び個別訓練は以下のとおり。

例：対象シーケンスⅢ及び個別訓練項目（1 / 3）

訓練項目	想定時間	人数	訓練内容
1.5 原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保※ ¹	540分	9人	①熱交換器ユニット及び大容量送水ポンプ（タイプⅠ）の設置, ホース敷設, 接続 ②原子炉補機冷却水系 系統構成 ③原子炉補機代替冷却水系接続後の原子炉補機冷却水系 空気抜き ④熱交換器ユニット及び大容量送水ポンプ（タイプⅠ）起動 及び監視
1.6 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器内へのスプレイ※ ²	385分	10人	①大容量送水ポンプ（タイプⅠ）の設置, ホース敷設, 接続 ②大容量送水ポンプ（タイプⅠ）起動及び監視
1.14 軽油タンク又はガスタービン発電設備軽油タンクからタンクローリへの補給	135分	2人	ガスタービン発電機からタンクローリへの補給
1.14 タンクローリから各機器への補給	40分	2人	タンクローリから大容量送水ポンプ（タイプⅠ）及び原子炉補機代替冷却水系への給油

※¹：「1.7 代替循環冷却系使用時における原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保」, 「1.13 海を水源とした原子炉補機代替冷却水系による補機冷却水確保」及び「サプレッションチェンバを水源とした代替循環冷却系使用時における補機冷却水確保」も同様の手順

※²：「1.8 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器下部への注水」, 「1.13 淡水貯水槽を水源とした原子炉格納容器代替スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器内の冷却」及び「1.13 淡水貯水槽を水源とした原子炉格納容器代替スプレイ冷却系（可搬型）による格納容器下部への注水」も同様の手順

2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

例：対象シーケンスⅢ及び個別訓練項目（2 / 3）

訓練項目	想定時間	人数	訓練内容
【個別訓練】 1.3 高圧窒素ガス供給系（非常用）による主蒸気逃がし安全弁（自動減圧機能）駆動源確保（高圧窒素ガス供給系（常用）から高圧窒素ガス供給系（非常用）への切替え）	50分	2人	高圧窒素ガス供給系（非常用） 系統構成
【個別訓練】 1.4 低圧代替注水系（常設）（直流駆動低圧注水系ポンプ）による原子炉圧力容器への注水※ ³	35分	2人	低圧代替注水系（常設）（直流駆動低圧注水系ポンプ） 系統構成系統構成，起動
【個別訓練】 1.11燃料プール代替注水系（可搬型）による使用済燃料プールへの注水※ ⁴	210分	3人	建屋内ホース敷設，接続
【個別訓練】 1.13 淡水貯水槽を水源とした大容量送水ポンプ（タイプⅠ）による復水貯蔵タンクへの補給	60分	3人	復水貯蔵タンク水密扉開放・ホース接続

※³：「1.13 復水貯蔵タンクを水源とした低圧代替注水系（常設）（直流駆動低圧注水系ポンプ）による原子炉圧力容器への注水」も同様の手順

※⁴：「1.13 淡水貯水槽を水源とした使用済燃料プールへの注水／スプレー」も同様の手順

2. 訓練手順, 実施方法(評価基準など)

例：対象シーケンスⅢ及び個別訓練項目（3 / 3）

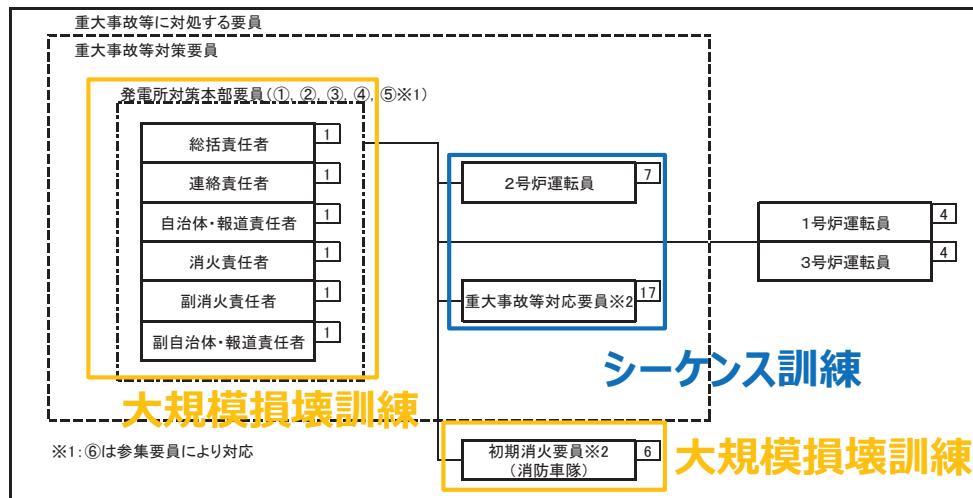
訓練項目	想定時間	人数	訓練内容
【個別手順】 1.14 所内常設蓄電式直流電源設備による給電 (不要直流負荷の切離し操作) ※5	60分	2人	125V直流電源負荷切離し
【個別訓練】 1.14 常設代替直流電源設備による給電	50分	2人	①125V直流主母線盤を常設代替直流電源設備（125V代替蓄電池）からの受電へ切替操作 （125V直流主母線盤2B-1受電） ②125V直流主母線盤を常設代替直流電源設備（125V代替蓄電池）からの受電へ切替操作 （125V直流主母線盤2A-1受電）
【個別訓練】 1.14 タンクローリからガスタービン発電設備軽油タンクへ補給	50分	2人	タンクローリからガスタービン発電設備軽油タンクへの給油

※5：1.15 代替電源（交流，直流）からの給電

3. 訓練体制

重大事故等に対処する要員のうち、以下が対象となる。

- ✓ シーケンス訓練：運転員は5班，重大事故等対応要員は16班
- ✓ 大規模損壊訓練：本部は10班程度，初期消火要員（消防車隊）

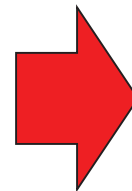


□ は人数を示す 合計 44 名

※2: 協力会社社員含む

①: 意思決定・指揮
②: 情報収集・計画立案
③: 現場対応
④: 対外対応
⑤: 情報管理
⑥: 資機材等リソース管理

第2図 女川原子力発電所 原子力防災組織 体制図
(夜間及び休日)



発電所対策本部要員		A班	B班	...
総括責任者				
連絡責任者				※ 個人名についてはマスキング
自治体・報道責任者				
消火責任者				
副消火責任者				
副自治体・報道責任者				
重大事故等対応要員		A班	B班	...
注水・除熱	(リーダー)			
	班員			
瓦礫	(リーダー)			
	班員			
給油	(リーダー)			
	班員			
電源・給油等	(リーダー)			
	班員			
初期消火要員(消防車隊)		-	-	...

対象者全員に力量を付与した上で、くじ引きにより代表1班を選出する。
なお、初期消火要員（消防車隊）及び重大事故等対応要員のうち協力企業については、代表者をくじ引きにより選出する。

4. スケジュール

- ✓ 現在，重大事故・大規模損壊共に，力量の付与のための教育訓練を実施中。
- ✓ 訓練対象の設備，機器に対する使用前事業者検査終了～燃料装荷前までに確認訓練を計画。

